

## 終章

聖書の女性たちを書きだして十年になります。

初めての本「系図に咲いた愛」には、マタイの福音書の冒頭を飾るイエス・キリストの系図に名を残す四人の女性を書きました。

二冊目「天の星のように」は旧・新約からへ母としての大役を担った一三人の女性に登場してもらいました。

三冊目のエッセイ集「恵みの奏でるシンフォニー」にもおなじみの聖書の女性たちが幾人も横顔を見せています。しかし私が描いた女性たちはたかだか二、三十名ほどでしょう。聖書には総勢何人の女性たちが登場するのか、まだ正確に調べたことはありませんが、筆を通して親交を深められたのはまだほんの一部でしょう。もちろんこれから先もペンの杖を頼りに彼女たちを訪ね歩くつもりですが、はたして何人に会えるでしょうか。

そう考えていくと、今回「ヨハネの福音書」中の四人に接近でき、一冊として生み出すことができたのはうれしい限りです。この一冊が前作の三冊のように、いえ、それ以上に、強い翼

を張って、私の知らない地域にまで旅をし、一人でも多くの人々の魂に「イエス・キリストのすばらしさ」を届けることができますようにと切望します。私とこの本の使命はそこにあるのですから。

しばらくは筆を休めて、一冊、一冊の旅を思い、祈り続けます。

最後に、一冊目から熱心に愛読し、いつも激励してくださる読者の皆様に心から感謝申し上げます。また「聖書と女性セミナー」を支え、学びの喜びを共有してくださる皆様に感謝申し上げます。

出版に携わってくださったCLC出版のスタッフの方々にお礼を申し上げます。

一九九九年 梅雨の開けた日に

三浦喜代子